

社協 ほどがや

No. 36

【発行】
社会福祉法人 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会(会長 山崎 滋)

〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町5-11 かるがも3階 ☎:341-9876 FAX:334-5805
ホームページ: <http://www.shakyohodogaya.jp/> Eメール: h@shakyohodogaya.jp

特集 定年あとには、地域活動を！ ～男の第2の人生の楽しみ方～

区社協、日本赤十字社からのお知らせ
コラム・こらむ、ボランティア情報、編集後記

1
2

地域のボランティアといえば女性が主流ですが、最近
は色々な場面で男性のボランティアが増えてきました。
関わりのきっかけや、活動の醍醐味について伺いました。

◇子育て支援ボランティア

7月の金曜日、瀬戸ヶ谷スポーツ会館で、子育て
サロン「ポテト」が開かれました。その日はあいにくの雨にもかかわらず、朝から続々と15組の親子
が集まりました。ボランティア、お母さん、子ども
同士もみんなが顔見知りで、子どもたちはすぐに慣
れて遊び始めました。

その中に、真田祐治さんがいます。真田さんはボ
ールを所定の位置に置いたり、マットを出したりし
ながら、子どもたちに危険のないよう見守っていま
した。子どもたちも真田さんに慣れた様子で、話し
かけたり、ボールを投げたり、突進してくる男の子
もいました。

真田さんは、定年退職後はじめて地域の活動に関
わるようになりました。横浜には約20年前からお
住まいですが、在職



中は地域の活動には
まったく縁がありませんでした。でも、
お世話になっている
地域だし、定年退職
したら少しは地域の
ことをしなければ、
と思い定年後自治会の手伝いからはじめて、現在は
自治会長として、また民生委員児童委員として地域
活動に携わっていらっしゃいます。

ご自身の子育ての経験は、転勤が多かったことも
あり、ほとんど奥様に任せきりだったそうですが、
この子育てサロンに関わるようになって、大変さを
今実感していらっしゃいます。

「こういう場で、お母さん同士が情報交換出来たり
することは、貴重ですよ。おしゃべりしてちょ
っと楽になったり、共感を得られたりできる場であ
ると良いと思いますね」と真田さんはおっしゃいます。

「最近では核家族世帯ばかりだから、自分のお父さん
しか男の人を知らない子どもも結構いるんですよ。
だから、子育て支援の現場に男の人がいるのは、本
当に良いことだと思います」と一緒に活動している
主任児童委員の長尾さんもおっしゃいます。真田さん



さんは、「ここに来
ると、元気をもら
えるので、無理を
せず、ずっとボラ
ンティアを続けて
いきたい」そう
です。

定年あとには、 地域活動を！ ～男の第2の人生の楽しみ方～

◇送迎ボランティア

区社協に登録している送迎ボランティアは現在
21名。通院など、自動車での送迎のニーズは高
まり送迎ボランティアは大活躍です。米澤大義さん
は、約8年前から送迎ボランティアとして活動して
こられました。

米澤さんは中学生時代から横浜で暮らしはじめ、
在職中は仕事一筋でした。でも、その時から「定年
になったら、ボランティアをしたい」と思っていた
そうです。



米澤さんは定年退職す
るとすぐに「何かできる
ことはないか」と探し始
めたそうです。ただし、
一つ条件がありました。
それは米澤さんの大切に
している趣味、日本の伝
統芸能である「能楽(の
うがく)」との両立です。
能楽も退職後の大きな楽
しみであり、そのための

時間を確保することも重要でした。だから「空いて
いる時間でできることはないか？」というのが米澤
さんのボランティア探しの条件でした。

区社協を訪ねたところ「車の運転はお好きですか
？」と尋ねられました。「自動車です送迎するボラ
ンティアもあるのか」とその時初めて知り、条件もび
ったりだったので、始めてみることにしました。送
迎ボランティアとして活動するための講習と実習を
受け、その後実際の活動が始まります。

それから約8年。現在も週に1～2回、送迎ボラ
ンティアを続けています。

「固定していても、車いすって結構揺れるんです
よ。だから、車いすを利用している方の送迎には、
ゆっくりとカーブを曲がったり、ブレーキをかけたり
しています」と穏やかに話されます。

送迎ボランティアは、利用料などのお金の受け渡
しや個人情報の保護など、活動を行う上で気を配る
点がいくつかあります。

「でもね、利用者のご夫婦が雨の日でも傘をさして
待っていてくれるのを見ると、人の役に立てたなっ
て。その度に、ボラン



ティアをやっていて良
かったと思うんだよね」

利用者にもファンが
多い米澤さん。その優
しい人柄が伝わってい
る様子がうかがえました。

今回、お話を伺ったお二人の男性ボランティアに共通していたのは、「定年退職したら、何か地域のためにしたい」という思いです。
定年後、真田さんは迷わず自治会の活動に参加され、米澤さんは迷いながらも、自分の条件にあう送迎ボランティアを選びました。
お二人とも以前にボランティア経験があったわけではありません。でも、お二人にはこれまで培ってきた豊かな人生経験があります。
それが「相手への接し方」や「長く続くコツ」に活かされています。そして今、お二人は地域活動を支える大きな柱となっています。

日本赤十字社(保土ヶ谷区地区)からののお知らせ

ご存じですか？日赤のこと

日赤って何をしている組織なの？

「日本赤十字法」という法律に基づいて設置された民間の組織です。その活動に税金は使われておらず、赤十字の理念や活動に賛同いただいた皆さまから寄せられる社資(寄付金)によって支えられています。全国47都道府県に支部があり、世界189の国と地域に広がる赤十字ネットワークの一員として、災害時の救護活動や救援物資の配付、紛争地での医療支援、途上国への保健衛生支援などを展開しています。また国内では、病院、社会福祉施設の運営、救急法などの講習などを行っています。

日赤の活動に私も参加できる？

もちろんです！皆さまの身近なところで活動しています。例えば、AED(自動体外式除細動器)の使い方や、応急手当を学べる救急法などの講習が各都道府県支部や区内で開催されていて、どなたでも参加できます。

日赤保土ヶ谷区地区委員会のお金の流れを教えてください！

皆さまからお預かりした社資は全額日赤神奈川県支部に送金します。神奈川県支部より保土ヶ谷区地区委員会に地区区分交付金(社資実績額の20%以内)が交付されます。そのお金は火災・風水害等により被災された方々に対して、見舞金、救援物資等を交付したり、地域防災拠点資機材費助成金や区内で開催される救急法などの講習会の経費等に使われています。



区社協からののお知らせ

第32回保土ヶ谷区社会福祉大会

保土ヶ谷区で地域福祉活動などに功績のあった方々の表彰や、複数の地区社協による福祉保健活動の発表を行います。また、地域の障がい者団体等による福祉作品展や福祉バザーが大会を盛り上げます！多くの方のご来場をお待ちしています。

日時：平成26年12月20日(土)
作品展・福祉バザー 11時～16時
表彰式典・活動発表会 13時～15時30分
場所：保土ヶ谷公会堂
(相模鉄道線「星川駅」北口より)



知っ得講座『今から始める終活！！』

将来の備えとして、エンディングノートの作成を体験しながら、自分自身に必要な準備が何かを専門家と一緒に考えます。

日時：平成26年11月17日(月) 13時30分～15時30分
場所：星川地域ケアプラザ2階 多目的ホール
講師：高橋亮太氏(行政書士)
定員：50名(先着順)
費用：無料



共同募金会保土ヶ谷区支会からののお知らせ

赤い羽根共同募金にご協力をお願いします。

10月1日から赤い羽根共同募金運動が始まります。皆さまから寄せられた募金は地域活動を支える「あったかほどがや助成金」や福祉施設の改修・備品購入などを支える貴重な財源となります。ご協力よろしくお願いします。過年度の助成実績や受配団体からのメッセージは赤い羽根データベース「はねっと」(<http://hanett.akaihane.or.jp/hanett/pub/home.do>)でご覧いただけます。



ボランティア情報

ボランティアコーディネーター研修 報告

旭区社会福祉協議会と共催で平成26年6月20日(金)に福祉施設のボランティア受入担当者対象のコーディネーター研修を実施しました。この研修では、ボランティアの受入に必要な視点などを学び、ボランティアの活動が充実したものとなることを目指し、19名のボランティア受入担当者が活動プログラムを作成しました。講師からはボランティアは人生の先輩であることが多く、受入担当者として人生の師匠に会えるチャンスでもあるなどのお話がありました。

参加者の感想(一部)

- 他施設の受け入れ状況や他の担当者の意見を聞くことができ、自分では想像できないことを知る事ができました。
- ボランティアの意義などをじっくり考えたことがなかったので参考になりました。
- ボランティアの方たちにいかに楽しく活動してもらえるか考えていきたい。



ミニボランティア講座

ボランティア活動の入門として“車イス体験”と“高齢者疑似体験”をしませんか？

日時 平成26年10月15日(水) 10時～12時
平成26年11月16日(日) 10時30分～14時
平成26年12月10日(水) 10時～12時
場所 福祉保健活動拠点 団体交流室(かるがも3階)
協力 グループ麦/テンダーよかボラ
定員 10名
費用 無料
申込方法 電話またはFAX



通所施設 えみ：知的障がい者の通所の施設です。

内容：絵画・習字の指導
日時：月曜～金曜 10時～15時の間で応相談
場所：保土ヶ谷区今井町

特別養護老人ホーム 快風苑：高齢者の入所施設です。

内容：話し相手・散歩の付き添い・ドライヤーかけ・お茶出しなど
日時：月曜～日曜(ご都合に合わせて)
場所：保土ヶ谷区境木町

特別養護老人ホーム ラポール三ツ沢：高齢者の入所施設です。

内容：話し相手
日時：曜日は応相談 14時～15時
場所：保土ヶ谷区峰沢町

地域作業所 ワークショップメンバーズ：精神障がいの方の就労支援の作業所です。

内容：「喫茶とちの木」でのお手伝い
日時：月曜～金曜 9時30分～15時
場所：保土ヶ谷区岩間町

外出サポート講座(ガイドボランティア研修会)

学校や病院などへの外出の手助けを必要としている方がいます。自閉症などの障がいのある方の外出に付き添い、日常のサポートをお願いします。

内容
第1回 10月29日(水) 10時～12時
障がいについて、ガイドボランティアについて
講師：保土ヶ谷養護学校教諭 他
第2回 実習(希望により調整、地域訓練会・放課後等デイサービスなど)
定員 20名(応募者多数の場合は抽選)
費用 無料
場所 福祉保健活動拠点 多目的研修室

男性ボランティアグループメンバー募集

保土ヶ谷区内の男性ボランティアグループは主に…地域ケアプラザのお手伝いを中心に地域貢献活動をしています。定年後の時間を有効に活用したいと考えている方、仲間づくりを希望する方ぜひ一緒に活動しませんか？

- ①岩崎男性ボランティア**
活動拠点：岩崎地域ケアプラザ
要支援者の草刈りや修理等の困りごとを解決、ケアプラザのお手伝い等
- ②男助っ人隊**
活動拠点：星川地域ケアプラザ
包丁研ぎ、介護予防ダンス、ケアプラザのお手伝い等
- ③そこそこ手伝い隊**
活動拠点：今井地域ケアプラザ
メンバーの技術を生かして相談に応じ、地域の困りごとのお手伝い等

ボランティア活動に関することは ボランティアセンターまでお気軽にお問合せください。

☎ 332-2412 (保土ヶ谷区ボランティアセンター直通) FAX 334-5805 ●開館 9:00～17:00(日・祝・年末年始は休館)

コラム・こらむ NPO法人 NPO認知症を考える会

NPO認知症を考える会では、法人設立以来、認知症サポーター養成講座を開催して、サポーターの増員に努めております。昨年、横浜市では認知症サポーターが10万人を超え、当会でも微力ながら今後も努力していきます。皆さまもサポーターになり、認知症の方の支えになってください。各地域で10人以上の希望者が集まれば、相談に応じて出前講座を企画します。詳しくは下記連絡先にご相談ください。

●NPO法人 NPO認知症を考える会
住所：新桜ヶ丘2-5-11 電話：090-8436-2788 Eメール：mdrkwh@agte.piaia.or.jp



編集後記

連日の猛暑にも負けず編集委員のみなさんの熱い討議の結果、社協ほどがや(第36号)が完成しました。今号は、地域で活動する男性ボランティアさんについてご紹介。自分にこんなことができるだろうか…と思われた方もいるかもしれません。障がい児の余暇支援、ひとり暮らし高齢者等の見守りなど、地域には様々な課題があり、その中でみなさんに出来ることもきっと見つかるはず。まずは「自分の好きなこと、できること」から始めてみませんか？(森泰昭)

*この広報紙は赤い羽根共同募金と日本赤十字社社資の協力で発行しています
*この広報紙のテープ版、デジ版を、保土ヶ谷録音グループ「はし」の協力により発行しています。ご希望の方は保土ヶ谷区社会福祉協議会までご連絡ください

編集委員…(委員長) 薩澤志萬子・(副委員長) 関塚龍補・金井篤史・高橋賀世子・中井友美子・中野英子・皆川康子・森泰昭

